



マドックなど  
20社のLLP

# 工場屋根改修受注に力

## 環境対応型工法を普及

マドック(大阪市浪速区、荒山元秀社長、06・6630・0150)が事務局を務める有限責任事業組合(LLP)の「ちきゅうにやさしい施工研究会」は、工場屋根の環境対応型改修工法(写真)の受注促進に乗り出した。

既設のスレート屋根に屋根材を乗せるため工場の稼働を止めずに施工できるほか、断熱効果を高める工法の効果をアピール。6月末から展示会を出展を通じて市場を掘り起こす。

同研究会はマドックを含め、建築関連の板金事業者ら20社が参加。2月にLLPを設立し、屋根改修のほか環境負荷を低減する資材開発・調達などの研究を進めている。

活用する工法は参加企業の仲井(愛知県豊橋市)が開発した「ゼロデイルーフ」で、既設のスレート屋根を固定するフックボルトを利用する。今月末から展示会への出展やインターネットによる情報発信を強化し、工場を持つ企業に提

案する。06年内に20万平方メートル規模の施工を目指す。当面、参加企業50社、年間100万平方メートルの施工を目指す。

ゼロデイルーフは既設屋根に穴をあけないため、工場内に切りくずが落ちず、アスベスト対策にも対応するという。大手自動車メーカー工場などに施工実績がある。二重屋根構造により従来のスレート単層屋根に比べ、夏季での実験では室内温度が6度程度下がると断熱効果もある。